



特集

令和5年7月 豪雨災害被災者支援活動



Instagram

やってます

facebook

ぜひ登録をお願いします

大分県社協

検索

<http://www.oitakensyakyo.jp>



Instagram



facebook



この広報誌は、共同募金の助成を受けて発行しています。

- 2 令和5年7月 豪雨災害被災者支援活動
- 4 子ども食堂取材日記 vol.2 金池子どもみんなのひろば
- 5 令和5年度 社協新任職員研修 開催
- 6 フードバンクへの寄贈ありがとう
- 7 eスポーツ教室を開催しています
- 8 みんなで取り組みよう! 環境問題とボランティア活動
- 9 第41回大分県ゆあいスポーツ大会/「介護の日本語」研修
- 10 第34回 豊の国ねりんピック美術展
- 11 令和4年度決算報告/令和5年度 賛助会員
- 12 ひろがる善意の輪/寄附・寄贈いただいた皆様
子ども食堂応援自動販売機が増えました

6月末から降り続いた大雨により、県内でも大きな被害が発生しました。

特に中津市と日田市には災害救助法が適用され、ボランティア活動による被災者支援を行いました。

また日田市では、土砂崩れによる二次被害が懸念されたため、日田市小野地区に避難指示が継続して発令されました。その影響で避難生活が長期化し、大分DWATによる避難所における被災者支援活動も同時進行で行いました。

「大分DWAT」大活躍！

今回の災害では、県内で初めて大分県災害派遣福祉チーム（DWAT）が避難所へ派遣されました。

災害派遣福祉チームとは、事前に登録のあった施設職員等が避難所において高齢者や障がい者、妊産婦などの配慮の必要な方へサ

ポートを行う福祉専門職の支援チームです。

この度の災害では、日田市複合文化施設AOSE（アオーゼ）の避難所に16日間、延べ63名が派遣されました。

避難された方のお話を丁寧に聞きながら、その中に潜んでいる困りごとを把握するところから始めました。DWAT単独で解決が難しい困りごとについては、行政やNPO団体、関係機関等と連携し、生活改善を図っていきました。



DWATが対応した具体的な困りごととは…

段ボールベッドが固くて腰が痛い。眠れない。



地元の温泉街に相談。余っている布団を寄付してもらえないかな……。

ほぼ全員分の布団を寄付してもらえた！就寝環境が整ったので、体の不調が軽減♪



体を動かす時間がなくて、なんとなく体がだるい……。



ラジオ体操をやってみます？という提案

実際にやってみた！1日のスケジュールの中に体操の時間を組み込んで、習慣化。



朝ごはん配給される菓子パンは、糖尿病で食べられない。



白ごはんなら食べられる。家から梅干しも持ってきている。

フードバンクと連携し、パックご飯を配置。朝ごはんが食べられるように♪



被災した自宅の片づけが全然できていない。



社会福祉協議会に相談。ボランティアを調整できないだろうか……。

避難指示解除後にボランティア調整が行われ、自宅の片づけが完了！





ボランティアの皆さん、ありがとう！

災害救助法が適用となった中津市と日田市では、被災された方の困りごとに対応するため、ボランティア活動が行われました。

	中津市	日田市
主な被災地区	山国、耶馬溪、本耶馬溪、三光	小野、大鶴、夜明
活動期間	7月12日～8月5日	7月12日～8月20日
ニーズ件数	46件	38件
ボランティア数	633人	532人



今回は被害が局所的だったこともあり、被災地社協の災害ボランティアネットワークを中心に活動を行いました。



災害ボランティアネットワークは、地元の団体等で構成されるもので、災害時にはそれぞれの団体の得意分野を活かした活動がスムーズに行えるよう、平時からネットワークとしてつながり、備えておくものです。県内では現在17市町村でネットワークを構築しています。

今回の対応では、ボランティア活動はもちろんですが、被災された方の困りごとを調査するニーズ

調査や、活動で使う資機材及び車両の提供、被災家屋での活動範囲の見立てなど、さまざまな分野でご活躍いただきました。

今回の災害を教訓に、毎年のように起こる災害に備え、まずは地元のことは地元で守ることができるよう、県内における体制強化を進めていきます。

今回の災害支援にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

子ども食堂 取材日記

vol.2 金池子どもみんなのひろば(大分市)



令和3年度から大分大学と大分県で地域共生社会の実現に向けた、多世代交流、住民相互の支え合い活動の促進や包括的支援体制を構築する市町村を支援するための取組みを始めています。その一環として、大分大学福祉健康科学部の学生が多世代交流の場実際に赴き、運営者や参加者と交流したようすを記事にしました。一部抜粋してお届けします。第2回となる今回は、大分駅の南側に位置する上野丘、金池地区にある「金池子どもみんなのひろば」です！

地域のひろば

「金池子どもみんなのひろば」は、毎月第2、第4土曜日に手づくりの昼食を含めた様々なプログラムを企画、運営しています。参加する子どもたちは、金池小学校と連携して、大人や学生たちが見守る中で安心して遊ぶことができます。ボランティアメンバーには、最高齢90歳の方も積極的に参加しており、多世代が集う地域のひろばでもあります。今回、私たちが参加したプログラムは、屋外の会場で、自然観察指導員、通称「森の先生」と一緒に自然とふれ合い学びながら上野丘墓地公園までの山道を歩き、お昼ご飯をみんなで食べるというものでした。

森の先生と子どもたち

当日、集合場所では子どもたちがみんな元気にあいさつをしてくれました。皆で連なり、山道を進みますが、子どもたちはエネルギーで興味津々、いろいろなものに興味を抱いては、すぐに他のことに興味が移り、次々と疑問を投げかけてきます。森の先生は、そんな子どもたちの疑問に、言葉だけではなく、実際に自然のものを使って楽しくて面白いものを作りながら、興味を引くように答えていきました。

山道を歩きながら、子どもたちはもちろん、子どもたちの保護者、ボランティアの方々など多様な年代の方々が参加していて、それぞれの関係づくりが見られました。また、ボランティアの方々が松の葉っぱを使

った手裏剣の作り方を教えてくださった時、子どもたちもお互いに教え合いながら手裏剣を作る姿に、活動を通じてお互いの交流を深めることの大切さを感じました。山道を抜けて公園に着くと、シートを広げて、まるで子ども会のピクニックのように皆でお弁当を食べ、不思議と懐かしい気持ちになりました。旬の栗などの食材を使ったとても美味しい手作り弁当を頬張りながら、子どもたちが食に興味を持つ環境にもなるのではないかと感じました。

学びから気づき、地域のための活動へ

「金池子どもみんなのひろば」は、6年前の2016年10月から始まった子ども食堂です。きっかけは、代表者の宗矩子(そうのりこ)さんが7年前に受講した大分大学の公開講座(コミュニケーション入門Ⅰ)でした。授業レポートの為に藤田孝典著『貧困世代』を手にとり、大学生の貧困問題、いわゆる、卒業しても非正規労働者となり、借りた奨学金の返済に追われ次世代に貧困が連鎖する問題を知りました。この時、次世代の「子どもたちの未来を守りたい」という思いが芽生えたそうです。コアメンバーの坪山さんは、当時を振りかえり、「あの頃は寄付も補助金も限られたもので『宗さん、おやつがこの予算では買えませんよ』って、持ち出しすることもしばしばでした」と懐かしそうに話されている姿が、とても印象的でした。坪山さんはここまでを振りかえり、「宗さんが、『地域のために活動しよう』と思う、ぶれない心があるから周りの人たちは自然について来るんですよ」と話されていました。



「みんなのひろば」としての子ども食堂

宗さんから、「子ども食堂」という名前のイメージが貧困と結びつきやすく、参加することへの抵抗やストレスがあるため、活動途中で「金池子どもみんなの“食堂”」から、現在の「金池子どもみんなのひろば」に名前を変えた

そうです。金池子どもみんなのひろばをはじめ多くの“子ども食堂”は、子どもに限らず誰でも訪れることができるそうです。それに、訪れる理由も人それぞれでいいのです。そのような場を地域に作ることで自分が大切なのでしょう。

※本記事は一部抜粋した形になっていますので、
記事全文は大阪大学のHPよりご覧ください。

<https://www.fwhs.oita-u.ac.jp/daigakuin/uncategorized/1732/>

こちらからご覧
いただけます➡



令和5年度 社協新任職員研修 開催

5月12日（金）、県内の新任社協職員を対象とした新任職員研修会を開催しました。

午前中は、県社協の地域福祉部と市民活動支援部から、社会福祉協議会の使命や役割、災害時支援や福祉教育について講話を実施。

午後からは別府市社協 福祉推進課長 片岡壮之さんが「地域共生社会の推進に向けて」と題し、別府市社協の取組んでいる小地域福祉活動の実践事例やミニワー



クも織り交ぜながら熱弁！

別府市社協では、ヤクルトや薬局などの地元企業と連携した見守り・相談支援活動、子ども達のために有効に活用してほしいとの寄附を原資にした別府っ子応援事業、地域の大学生等を巻き込んだ多世代交流の場づくりなど、様々な取組みを「縦割りではなく、部所横断的に」をモットーに進めているそうです。

また、別府市地域福祉計画と一体的に策定した第3次地域福祉活動計画を円滑に進め、計画の実効性を高めるため「アクションプラン」を別途作成しているとのこと。更にはこの「アクションプラン」を通じて“一人ひとりの職員が社協のどの部所で働いていても、ミッションや活動原則などを共有できるよう”働きかけているとのことであり、そのことが取組みの効果を一層あげていることにつながっているのではないかと思います。当日は、事例を用いたワークを行いながら、社協内外の“つながり”の重要性についても学んでいきました。

参加者の声

社協の取り組みや別府市の取り組み等、自分の勤める市社協にも取り入れたい

自分たちは、住民主体のもと、地域のつながり、ネットワークを構築していく立場にあるということに気づいた

ただ手助けするのではなく、一人一人の普段の暮らしの幸せづくりを探すことが重要と思った

地域の福祉づくりを様々な視点から見て、連携していきたい

他部所や地域・行政など、幅広い役割を知り、関わり合いながら福祉に関わっていかなければならないと感じた

食にお困りの方をみんなで支えあう フードバンクへの寄贈ありがとう

本会が自主運営している「フードバンクおおいた」は、今年で7年目を迎え、毎年の取扱量も年々増加しています。これまでの取組みや昨年度の活動についてまとめました。



1. 食品取扱量

昨年は4月から毎週のように食料品等を家庭や企業等から寄贈いただきました。SDGsに取り組む企業からの寄贈が増えており、受領個数・重量共に増加しています。同時に、コロナ禍での生活困窮や物価高騰による物品不足から提供個数・重量も増加しました。

寄贈いただく主な食品は、米、インスタントラーメン、お菓子などが挙げられ、前期は水や缶詰、調味料類が不足しがちでしたが、後期はフルーツや魚・鶏などの缶詰類が不足しました。

食品取扱量の推移

受領個数は約2.2倍、提供個数は約1.8倍に増加。

年度	寄贈数(品数)		提供数(品数)	
平成28年度	6,580	7.8t	6,359	7.1t
29年度	16,020	10.4t	14,462	9.2t
30年度	43,804	18.7t	39,658	17.3t
令和元年度	43,068	18.2t	39,586	17.8t
2年度	31,116	12.4t	28,706	10.2t
3年度	40,926	24.9t	38,573	24.1t
4年度	88,275	31.2t	69,903	27.3t

主な提供先

子ども食堂、市町村社会福祉協議会
くらしサポート事業実施施設
生活困窮者自立支援団体、災害復旧支援団体
子ども家庭支援センター、大学・短大生等

2. 関係機関・団体との協働



1 | ウクライナからの避難者を支援

県内への避難者24人に対する食料支援を行いました。



2 | 大分銀行との大学生向け食料支援

おおいた地域連携プラットフォームを通じて、県内9つの大学・短大へ提供しました。



3 | ダイハツ九州との食料配達支援

ダイハツ店舗から、臼杵市・佐伯市の店舗へ食料を配達いただき、県南の子ども食堂へ食料を提供。



4 | イオン九州フードドライブキックオフセレモニー

九州7県で65店舗から92店舗に実施店舗を拡大。



5 | OAB感謝祭への出席

OAB感謝祭のSDGsブースに参加。フードドライブ、啓発活動を実施。



6 | 大分トリニータ世界食料デー企画

世界食料デー月間に大分トリニータとフードドライブを実施。



7 | 児童養護施設卒園者スタートアップ応援事業

卒園者に対して、出身施設を通じて卒園後2年間の生活サポートとして食料支援を実施。

長引くコロナの影響や物価高騰など、年齢・性別を問わず生活にお困りの方々は地域にまだまだたくさんいらっしゃいます。これからも皆様とともに、一人でも多くの方をみんなで支えあう「助けあいの地域づくり」を、食生活を通じて行っていきたいと考えていますので、引き続き、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

eスポーツ教室を開催しています

大分県身体障害者福祉センターでは令和4年度から、eスポーツを主催教室に取り入れ、障がい者・児への普及に努めています。今年度は年間5回の開催に、定員を超える20名の申し込みがありました。教室の最終回には「ミニeスポーツ大会」を予定しており、7歳から60代の方が真剣勝負で練習の成果を楽しみにしています。今後は、オンラインでのeスポーツ大会の開催や福祉事業所との交流戦等、さらなる事業の拡大と参加者の増大を目指したいと考えています。

当センターのeスポーツ教室では、「リズムに合わ



せてパチで太鼓をたたく音楽ゲーム」、「落ち物パズルゲーム」、「ドライビングシミュレーションゲーム」、「対戦型格闘ゲーム」等のゲームを用いており、初心者でも操作が簡単で始めやすいタイトルを選んでいるため、どなたでも参加しやすい教室になっています。



みんなで取組もう！

環境問題とボランティア活動 大分県ボランティア連絡協議会研修会

「年に1～2回は各地で一緒に取り組めるボランティア活動があったらいいなあ」「環境に関するボランティアは若い方の参加が多いので今後の活動の参考にしたい」など皆さんの意見から、今回の研修会は環境問題をテーマにしました。

6月9日、講師に大分県環境教育アドバイザーの海原明子氏をお

迎えして、環境問題とボランティア活動についてお話しいただき、海ごみ、マイクロプラスチックなど、知っているようで知らないごみ問題の実際を学び、身近なことからできる取り組みを考えることができました。

また、子どもたちとの遊びながらの学びやフィールドでの実践を通して、「ごみを減らす・ごみを

拾う・分別する」という『あたり前』を伝えていくことが結果としてボランティア活動につながっていること、周りの人を巻き込みながら活動していることなどのお話があり、参加者自身が現在の活動とも照らし合わせながら、環境問題や今後のボランティア活動について思いを新たにする時間となりました。

参加者の声

改めてごみが分解されるまでの期間が長いことを考えさせられた。「ごみを拾うことは当たり前」の活動を広げることができるよう実践していきます。

子どもたちと一緒に海でのごみ拾い活動ができれば良いな、と以前から考えていたので、とても参考になりました。

日々の生活の中にも環境を守る答えがあるということを学ばせていただきました。

自分の生活にかかわるものとしてとらえ直すよい機会になりました。「どこをキレイにしてもいい」というのは、取り組みやすくするよい言葉だと思いました。

今後に向けて思ったこと・考えたこと

ボランティア活動は呼びかけをして仲間を増やすことも大事、本人が参加する気持ちを持つことも大事だと考えます。多くの人が参加する気持ちを持ってほしいと思うので、呼びかけをしたい。

“ボランティアしませんか？”ではなく“手伝ってもらえませんか？”のほうが、参加に対する敷居が下がるのかもしれないと思いました。

ごみの分別・集積の活動について、ボランティアの仲間だけでなく、子どもたち、老人クラブの人たちを巻き込んで、もっともっと広がってほしいと思いました。

4年ぶり開催！



参加者の所属する施設からの声

頑張ってメダルを取って
喜んでいる姿が見られた。

これからも続いていくと利用者も楽しみが増
えて充実した時間になると思います。

競技が盛り上がり満足した。

普段の練習の成果を出す場があり良かった。

利用者の笑顔
が見られた。

他施設の利用者との交流
ができて嬉しそうだった。

参加者が久しぶりの開
催で楽しんでいた。

第41回大分県 ゆうあいスポーツ大会

— いま 君がすばらしい —

6月3日(土)、県内の知的障がい者施設の利用者が参加しました。

本大会は“いま 君がすばらしい”をテーマに、知的障がい児者のスポーツを通じた体力の維持・向上、交流を目的としています。

令和元年度以来、4年ぶりの開催となった当日は、県内49施設から関係者を含む約1,200名が参加しました。

今回は実施競技を見直し、午前中のみの開催となりましたが参加者は久しぶりの400mリレー、20m走、50m走、フライングディスク、ソフトボール投げ、立ち幅跳び等に全力で打ち込み、汗を流していました。各競技、1位から3位までの入賞者にメダルを贈呈すると、会場内のいたるところで喜びの声が上がっていました。

介護のこたばを「くり返し」学ぶ！

日本人と結婚した外国人スタッフ向け「介護の日本語」研修

県内介護事業所で勤務する外国人介護スタッフのうち、日本人と結婚した方等の在留資格者を対象に、介護の専門用語を継続的に学習する「介護の日本語」研修を令和4年10月下旬から令和5年2月上旬にかけて開催し、11人が参加しました。

本研修は明治大学 国際日本学部 兼任講師の武内博子先生をむかえオンデマンド配信17回、オンラインによるリアルタイムクラス4回を組み合わせで行いました。

オンデマンド配信ではくり返し動画を視聴し課題を提出することで、介護の専門用語の読み書き・意味の習得を目指しました。また月に1回のリアルタイムクラスは、オンデマンド学習の到達度を参加者自身が実感できるようクイズ形式で復習を行うとともに、一人ずつ教材を朗読する「多読」を通じ互いに交流を深める機会となりました。

令和5年度も、4年度と同時期に研修を引き続き開催予定です。



参加者の声

勉強したいけど、一人ではなかなかできないし、リアルタイムクラスがあれば勉強のモチベーションが上がる。

(リアルタイムクラスでは) おぼえていないかんじがあったとき、だれかがよんでくれる。

かんじ、にほんご、ことばをもっとたくさんべんきょうしたいです。

みんなといっしょにべんきょうするとたのしい。

(リアルタイムクラスでは) 質問に答えることで、自分で勉強した内容が覚えられたかチェックできます。

オンデマンドは、一つのアプリで動画、宿題、テキストを簡単にチェックできるので便利です。

シニア世代の文化の祭典！

第34回 豊の国ねんりんピック美術展 シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展の開催

シニア世代の活動の促進や生きがいづくりをすすめるため、5月16日から21日の期間、第34回豊の国ねんりんピック「美術展」「シルバーふれあい短歌・俳句・川柳

展」を開催しました。県内在住の60歳以上の方が創作した、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、短歌、俳句、川柳などの作品を展示し、お披露目することができました。

美術展 出品作品数

日本画の部	14点
洋画の部	73点
彫刻の部	4点
工芸の部	27点(共同作品の部を含む)
書の部	26点
写真の部	27点

計 170点

短歌、俳句、川柳展 出品数

短歌の部	281点
俳句の部	781点
川柳の部	515点

計 1,577点

美術展最優秀賞作品の紹介

日本画の部



「2022」
大分市 小野佐千子さん



「川添の桜」
佐伯市 松田博之さん

洋画の部



「曼珠沙華」
宇佐市 中根靖子さん



「立羽田の秋」
大分市 齊藤隆輝さん

彫刻の部



「龍の透かし彫り」
日田市 財津晴喜さん



「椿」
日田市 中島勝行さん

工芸の部



「自然袖壺」
大分市 阿部廣機さん



「練込麦文花器」
国東市 渡邊尚義さん

写真の部



「ママお中すいた」
大分市 荻野安弘さん



「小春日和」
宇佐市 安部民子さん

書の部



「一握の砂」
別府市 宗安春佳さん



「楽天が早春寄せ見るに和す」
中津市 佐藤俊夫さん

受賞されたみなさま、おめでとうございます

最優秀賞作品は、10月28日から31日に開催される、第35回全国健康福祉祭えひめ大会に出品します。

□ 愛媛県美術館 南館 〒790-0007 愛媛県松山市堀之内 □

令和4年度決算報告（社会福祉事業）

令和4年度は、6月に「大分県社協第5次中長期活動計画（だいふくプラン2022）」及び「経営基盤強化・発展計画2022」を策定し、その初年度としての実践を行うとともに、本会創立70周年記念誌を発行しました。

コロナ禍にはあったものの、関係機関・団体等との連携・協力のもと、「だいふくプラン2022」の基本理念である「強い絆で結ばれた地域社会の構築～安心・安全で尊厳のある自立した暮らしの実現～」に向け、各事業の推進に取り組みました。

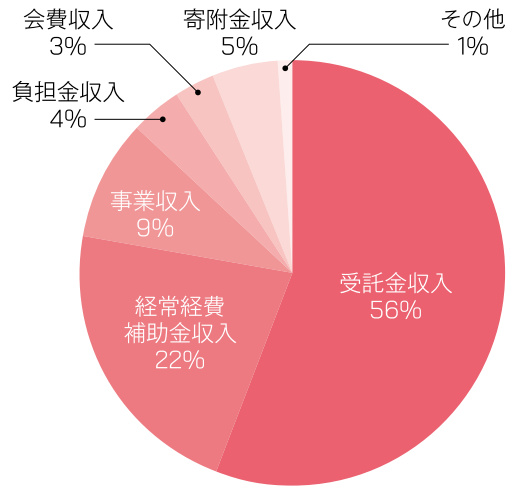
また、「経営基盤強化・発展計画2022」の着実な推進により、人材の確保・育成及び情報発信の整備等を通して法人の経営基盤の一層の強化を図り、時代のニーズや変化に機敏に対応できる組織の構築に取り組みました。



事業報告・決算の詳細については、ホームページをご覧ください。

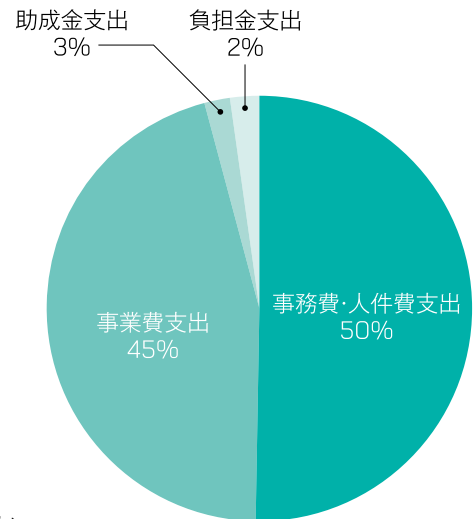
収入内訳

■ 受託金収入	373,002千円
■ 経常経費補助金収入	148,749千円
■ 事業収入	57,514千円
■ 負担金収入	29,671千円
■ 会費収入	22,891千円
■ 寄附金収入	35,028千円
■ その他	3,578千円
合 計	670,433千円



支出内訳

■ 事務費・人件費支出	310,168千円
■ 事業費支出	276,188千円
■ 助成金支出	15,262千円
■ 負担金支出	12,798千円
合 計	614,416千円



令和5年度

いつもご協力をありがとうございます

賛助会員

令和5年8月末日現在
※敬称略 50音順

安藤幸二	梅木豊誌	株式会社 テレビ大分	特定非営利活動法人 銀河鉄道
伊東雅人	エヌ・ケイ・ティ 株式会社	株式会社 DMGコミュニケーションズ	特定非営利活動法人 ホビータイム
医療法人慈愛会 向井病院	大津幸江	株式会社 電子印刷センター	富高義和
医療法人向心会 大貞病院	大分県医師会	株式会社 東豊開発コンサルタント	西永和夫
医療法人大分朋友会(朋友クリニック)	大分電子工業 株式会社	株式会社 中津急行	ネットヨタ大分株式会社
医療法人岡仁会 大分共立病院	大分県済生会日田病院	株式会社 長嶋不動産鑑定事務所	東九州設計工務 株式会社
医療法人社団 親和会	大分県司法書士会	株式会社 まるひで	姫野裕貴
医療法人社団仁泉会 畑病院	大分県商工会議所連合会	株式会社 諒和	松田重博
一般社団法人 大分市医師会	神本紀武	株式会社 和敬	丸果大分大同青果 株式会社
一般社団法人 大分県建設業協会	河野千代子	上村不動産 株式会社	村上世一
一般社団法人 大分県歯科医師会	株式会社 インタープリント	玖珠NOK 株式会社	名鉄観光サービス株式会社 大分支店
一般社団法人 生命保険協会 大分県協会	株式会社 EVO	グローバルライフ生石	モジュンダル由美子
臼杵清次	株式会社 太田旗店	公益社団法人 大分県理学療法士協会	有限会社 大分エンゼル商事
	株式会社 大分銀行	社会保険労務士事務所 SRI	有限会社 佐伯電業社
	株式会社 オー・ビー・シー	社会福祉法人 玖珠会	有限会社 寺司装備
	株式会社 大分放送	新日本法規出版 株式会社 福岡支社	有限会社 福 小池原福招苑
	株式会社 古宮工業	セイブ海外研修協同組合	有限会社 フードスタッフ
	株式会社 GNE 福岡支店	外堀印刷 有限会社	有限会社 明友
	株式会社 但馬設備工業	詫磨環境 株式会社	有限会社 ワイズケア
	株式会社 千代田	特定非営利活動法人 あいネットワーク	よしどめ内科・神経内科クリニック

株式会社アシタエ



子どもたちの活動のためにご寄附をいただきました。

大分朝日放送株式会社



子ども食堂へご寄附をいただきました。

大分合同福祉事業団



子ども食堂へご寄附をいただきました。

株式会社
大分フットボールクラブ



災害支援、地域福祉活動、子ども・高齢者支援のためにご寄附をいただきました。

株式会社大分放送



災害支援、子ども食堂のためにご寄附をいただきました。



昭和37年5月1日、全国で最初に誕生した本会の善意銀行は、各方面の深いご理解とご協力により支えられています。誰かを思いやる気持ちによって広がる善意の輪。一部ではありますがお届けします。(敬称略)



ホームページ、Facebook、Instagramにも掲載しています。ぜひご覧ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

株式会社大本組



フードバンクへ食品をご寄贈いただきました。

大分キャンノンマテリアル株式会社



フードバンクへ食品をご寄贈いただきました。

九州電力グループ



フードバンクへ食品をご寄贈いただきました。

株式会社テレビ大分



フードバンクへ食品をご寄贈いただきました。

寄附・寄贈
いただいた皆様

令和5年2月～5月
※掲載辞退者及び上掲載分を除く
50音順 敬称略

愛隣幼稚園

旭化成メディカルMT株式会社

あんしんの華

イオン九州株式会社

NTTビジネスソリューションズ

大分エル・エヌ・ジー株式会社

大分教区仏教婦人会連盟

大分県遊技業協同組合

大森康正

カープス

株式会社EXTRA

株式会社サンリブ

株式会社へへへ企画

株式会社マルキュウ

カルゲン製菓株式会社

河野千代子

九州自然動物公園アフリカサファリ

九州電力株式会社新大分発電所

邦久汽船株式会社

公益財団法人老人はげみの里見会

コープおおいた

国分九州株式会社

JAおおいた女性部

JTB

白玉ふあ。

新光石油株式会社

関祐治

セブンイレブン(宇佐石田店)

第一生命保険株式会社

玉井春平

鶴崎海陸運輸株式会社

Dream 財団

フォルツァ大分

文具事務機商組合連合会

豊後山水会

マルハン高城店

モジユングル由美子

(有)みどり調剤薬局

ゆめマート日田

酪農業協同組合

子ども食堂
応援自動販売機が
増えました

設置先企業・施設(敬称略) 令和5年4月～8月末現在

社会福祉法人直心会 つくし園／株式会社UME設計
株式会社サンライフ(トマト店、アップル店、メロン店、オレンジ店)／医療法人社団中津胃腸病院

ご協力
ありがとうございます！

